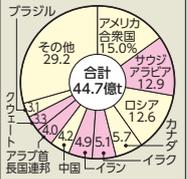
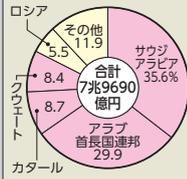


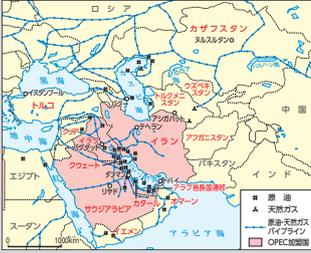
デジタル教科書指導案／地理的分野

1. 題材 p.62-63 資源が豊富な中央アジア・西アジア
2. 目標
 - (1) 西アジアや中央アジアの経済成長について理解し、原油の生産や輸出が西アジアや中央アジアの経済発展につながっていることを理解することができる。
 - (2) 他地域との結び付きに着目して、原油の生産や輸出が西アジアや中央アジアの発展に与える影響について、多面的・多角的に考察できる。
3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・資料から、西アジアや中央アジアではさまざまな資源が産出されることと、そのおおまかな分布を理解している。
思考・判断・表現	・原油で得た利益を交通・通信網の整備や観光業の発展などの分野に活用している背景を考察している。 ・パイプラインが張り巡らされていることや紛争が多いことの背景を、原油と関連させて多面的・多角的に考察している。
主体的に学習に取り組む態度	・多様な自然や文化がみられるアジア州の地域的特色を、経済発展の視点から追究しようとしている。

4. 指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
導入	1. 「ペルシア湾に造られた人工島パーム・ジュメイラ」を題材にし、本時の課題をつかむ。 2. 砂漠で都市が発展した理由を予想し、学習課題への見通しを持つ。	  p.62 1  「上空から見たパーム・ジュメイラ」 写真を見て気付くことを挙げてみよう。 西アジアの国々はどのように発展しているのだろうか。	○ アラブ首長国連邦に造られた人工島の風景から気付いたことを自由に発表させながら、本時への導入を図る。 ○ 砂漠で都市がこのように発展した理由を予想させる。 ○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
学習課題：西アジアや中央アジアの国々の経済成長は、どのような産業が支えているのだろうか。			
展開	3. ペルシア湾岸の国々は、豊かな石油資源によって発展してきたことを理解する。 (1) 主な産油国と日本の輸入先	  地図帳 p.40 10 ドバイがこのように発展できたのはなぜだろうか。   p.62 2  p.62 3 	○ ドバイの位置を地図帳で確認させ、砂漠の中で都市が発展した理由を考えさせる。 ◆ ドバイをはじめ、ペルシア湾岸の国々は、原油で得た利益により発展していることを理解させる。 ◆ 世界の原油生産のうち、西アジアの国々が約30%を占めていることを読み取らせる。 ◆ 日本の石油はこの地域に大きく依存していることに気付かせる。
		二つのグラフから分かることをまとめてみよう。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展 開</p>	<p>(2) 石油に依存しない社会</p> <p>4. 資源に恵まれた西アジアや中央アジアの国々における課題と解決策を考察する。</p> <p>(1) 豊かな資源と労働力</p> <p>(2) 紛争と難民問題</p>	 <p>p.62 1</p> <p>ドバイをこのように整備している目的は何だろうか。</p>  <p>p.63 6</p> <p>資料からこの地域の特色について挙げてみよう。</p>  <table border="1" data-bbox="726 795 1061 958"> <tr> <td>アラブ首長国連邦 934万人</td> <td>外国人 83.7%</td> <td>自国民 16.3</td> </tr> <tr> <td>クウェート 336万人</td> <td>60.1%</td> <td>39.9</td> </tr> <tr> <td>サウジアラビア 2882万人</td> <td>31.4%</td> <td>68.6</td> </tr> <tr> <td>オマーン 363万人</td> <td>30.6%</td> <td>69.4</td> </tr> </table> <p>p.63 5</p> <p>p.63 4</p> <p>ここでは、どのような人々が働いているのだろうか。</p>  <p>p.63 7</p> <p>シリアなど、この地域で難民が発生しているのはなぜだろうか。</p>	アラブ首長国連邦 934万人	外国人 83.7%	自国民 16.3	クウェート 336万人	60.1%	39.9	サウジアラビア 2882万人	31.4%	68.6	オマーン 363万人	30.6%	69.4	<p>○ ドバイが観光業への進出を目指している理由を考察させる。</p> <p>◆ アラブ首長国連邦では、将来の石油資源の枯渇にも対応できるよう、新しい産業への進出を目指していることに気付かせる。</p> <p>○ 油田のおおまかな分布を地図から確認させる。</p> <p>◆ ペルシア湾岸やカスピ海沿岸で原油が生産され、輸送のためのパイプラインが張り巡らされていることを読み取らせる。</p> <p>○ 資料から、ペルシア湾岸の国の特色を読み取らせる。</p> <p>◆ ペルシア湾岸の国では、多くの外国人労働者が働いていることに気付かせる。</p> <p>◆ この地域は、資源をめぐる利害関係の対立や政治が民主的に行われなことから、紛争や内戦も多いことを理解させる。</p> <p>○ 解決のために可能なことを考察させる。</p>
	アラブ首長国連邦 934万人	外国人 83.7%	自国民 16.3												
クウェート 336万人	60.1%	39.9													
サウジアラビア 2882万人	31.4%	68.6													
オマーン 363万人	30.6%	69.4													
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">整 理</p>	<p>5. 本時のまとめをする。</p> <p>6. 学習課題への振り返りの活動を行う。</p> <p>7. 「節の問い」への振り返り活動を行う。</p>	<p>中央アジアや西アジアの国々が、産業を發展させてきた背景について、説明しよう。</p> <p>「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。</p> <p>アジア州における急速な経済成長は、地域にどのような影響を与えているのだろうか。</p> <p>この節で学んだことから、次の節の学習に生かせることを考えてみよう。</p>	<p>◆ 中央アジアや西アジアの国々は、原油や天然ガスの輸出で利益を得てきたが、原油価格に経済が影響されないように、現在は観光業など発展に力を入れていることなどを説明できたか確認する。</p> <p>○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。</p> <p>○ 「節の振り返り」へ記入させ、次節の学習へつながりを持たせる。</p>												